

ワダソウ *Pseudostellaria heterophylla* (Miq.) Pax

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 13。大陸系の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、分枝せず、高さ 10~20cm になる。根は主根が紡錘状に太くなる。葉は対生し、上部の 2 対は接近して仮輪生状、葉身は広卵形~ひし状卵形、長さ 3~6cm、幅 1.5~3cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形、下部の葉は細く、倒披針形~長いへら状である。花期は 4~5 月、花は茎の先端に 1~5 個がつき、1~2cm の柄がある。花弁は 5 枚、白色、倒卵形で先はややへこみ、長さ 7~8mm である。閉鎖花は少数が茎の下部につく。蒴果は卵球形で、直径 6mm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52017, 1994-6-11)、3 東栄 (小林 36921, 1992-5-4)。西：19 旭 (駒山) からも報告されている (井波 1979)。

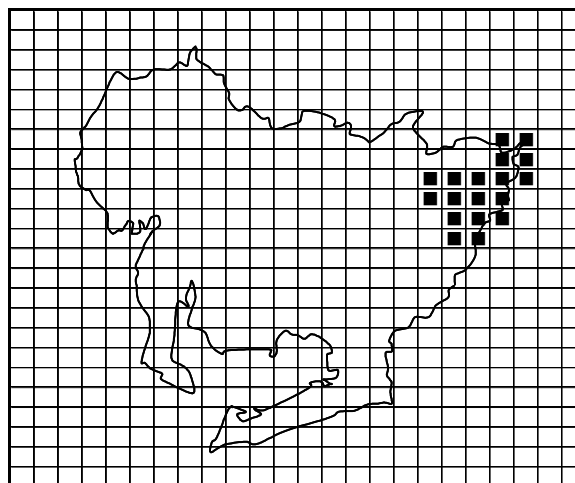
【国内の分布】

本州 (中部地方以北)、九州 (北部)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。愛知県の生育地は、いずれも明るい二次林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どの場所も、少数の個体が点在しているだけらしい。一方で林の伐採、他方で二次林の利用停止による被陰により、消滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を、いわゆる里山状態で保全することが必要である。

【特記事項】

和名は、長野県和田峠に多産したからである。ヨツバハコベの名もあるが、現在ではこの名は他の帰化植物に使われることが多い。

【引用文献】

井波一雄. 1979. ワダソウ愛知県に産する. レポート日本の植物(1):1.

【関連文献】

保草II p.267, 平草II p.34, 平新版 4 p.116.